社会福祉法人　入間東部福祉会　入間東部みよしの里

令和３年３月 発行

みよしの里 あいあい通信

目次

職員コラム　P1

コロナ禍での生活　P2

にやりほっと報告　P3

入間東部福祉会入間東部みよしの里（障害者支援施設）　〒354-0045　埼玉県入間郡三芳町上富 322-2　Tel 049(258)8130
Email shien@joy.ocn.ne.jp　ホームページ（入間東部福祉会・みよしの里）http://iruma-east.com/

みよしの里に勤めて

支援員
半田　明日香

みよしの里に勤めるようになって、2年半が過ぎました。別業種で長年働き、専業主婦を経ての勤務でした。新しい職場に期待をしつつ、出勤したのを覚えています。

しかし勤務してすぐに自分の甘さに気付き、後悔をしました。知識がないのはもちろん、一刻一刻と変化する利用者さんの姿に戸惑い、振り回されました。頑張れば頑張るほど空回りしてしまい、沢山のご迷惑をお掛けしてしまいました。

でも、楽しんでいる自分もいました。予想外の事柄も多く、前職では体験できない貴重な時間を過ごせています。今は、利用者さん、保護者さん、スタッフ、一人ひとりが大切な存在になり、特に利用者さんは、掛け替えの無い存在になりました。どうすれば安全に過ごせるか。どうすれば、心地よい空間を作れるか。どうすれば笑顔で過ごして貰えるか。そんなことを考えて、日々、利用者さんの側で笑顔でいさせて頂いています。

利用者さん、保護者さんの高齢化に伴い、新たな課題もでてきています。不安な世の中ではありますが、“障がい”“支援”という枠を越えて、これからも一緒に素敵な時を重ねていきたいと思います。

支援員として働いてみて

支援員
宮元　美咲

みよしの里に勤めて2年ほど経過しました。入職当初は目の前の事に必死になり、ただ黙々と支援をするばかりでした。

しかし振り返る中で、利用者さんがどうしたら喜んでくれるか、楽しんでくれるかを意識しなければならないと気づきました。それからは、利用者さんに笑顔で接することを心がけたり一人ひとりに合ったコミュニケーションを模索するようにしました。

すると以前より利用者さんとの関係が少しずつではありますが築けるようになっていきました。今でも支援や関わり方については試行錯誤の毎日でうまくいかないこともあり、葛藤することもあります。しかし福祉の仕事はそれ以上に楽しいことばかりです。利用者さんが笑顔で話しかけてくれた時、私の名前を呼んでくれた時、その小さな一つひとつが心の支えとなっています。

これからも利用者さんに支えられながら共に成長できる職員でありたいと思います。

1年を振り返って

支援員
永沼　祐紀

入職し2年目の年は異色な1年でした。新型コロナウイルスによる感染症の拡大。それの伴う新しい生活様式や帰省・行事の自粛。様々な変化の中利用者さんには不安やストレスが多く募っていたと思います。しかし、陽性者が今現在いないことは大変喜ばしいことだと思います。また、季節を感じる行事もあり、「金魚を見た！」・「ハロウィンパーティをした！」・「サンタさんに会えた！」と、とても楽しむことができました。このような緊急事態の中、「帰省」に関してどのように利用者さんに声をかけていいのか私は考えていました。何度も話し続けること、先輩方をみて真似して工夫することで利用者さんにも納得してもらえるようにしました。辛いけれど、一生懸命理解して下さる姿を見て、実践してみて良かったと思いました。

まだまだ、油断禁物ではありますが少しでも終息に向かい、皆さんの不安・心配が軽減する事を願っています。

みよしの里の1コマ
オンライン面談スタート

昨年はコロナ渦により通常の生活が難しく、通常の活動、イベントが中止となってしまいました。利用者さんにとっては多くのストレスに晒された1年となってしまった事でしょう。また、帰省も計画的に行うことが難しく、家族と会えない事で心に大きな負担が掛った方が居たように感じました。その負担を少しでも軽くすべく、2月よりオンラインでの面会が開始されました。画面を通してですが、久し振りの対面に利用者さんも保護者さんも嬉しそうな表情。素敵な時間を過ごしてくれました。

ICT機器の導入について

支援員　西田貴博

みよしの里では、今年度に入り、見守りスキャンや、スマートフォンの導入など、情報通信機器の導入が行われました。ご利用者の生活を支える立場の我々は、多岐にわたるご利用者さんの特性や日々の生活の状況に応じて、たくさんの情報を見たり、聞いたりする必要があります。しかし、過去の情報を忘れてしまったり、目の前のことに気を取られてしまうこともあります。ご利用者の身体の安全や生命を守る使命を持った私たちはうっかりでは済まない事も多々あります。さらに、みよしの里は、たくさんの人が交代で勤務をします。そうしたなかで円滑にコミュニケーションを図るためには、情報通信機器の助けを借りる必要があります。折しも、コロナ禍の中で、離れ離れの生活を余儀なくされている現状でありますが、情報通信機器の有効活用によって、離れていてもまるで近くに居るようなコミュニケーションもアプリケーションの活用(オンライン面会)によって、可能になります。

ここで、大切にしなくてはいけないことは、みよしの里に入職して、先輩の職員の方々が口々にする「仲間」というご利用者に対する代名詞でした。全てを包んで、迎え入れて生活をしているのがみよしの里という場所なのだなと感じたものでした。これは、私自身の支援員の初心でもあります。支援員の仕事として自分の手を動かすという考え方が大事と考えます。手を通して「仲間」である利用者にぬくもりや温かさあるいは真心と言うものを伝える必要があるからです。　このような根幹の部分を情報通信機器の助けを借りるということはないということはっきりということができます。

福祉サービスの現場は人がいない、多忙である。日々の生活にともすると追われるような忙しさがついてまわります。その中で、心の部分をゆとりを持ち、誇りと使命感をもって利用者と施設の事業の発展に貢献するためにも、情報通信機器の通信技術の助けがどうしても必要になります。

記録や事務あるいは情報の管理といったいわば機械が得意とする分野は、支援員が勉強しながら上手につかっていき、我々にしかできない支援を行っていきたいと思います。支援をするという根幹の部分を守るための情報通信機器の導入ということをご理解いただけますと幸いにおもいます。

にやりほっと報告

みよしの里では、にやりとした・ほっとしたことを報告する「にやりほっと報告」と、ひやりとした・はっとした報告「ひやりはっと報告」を毎日の業務終了後に支援員間で情報を共有しています。その中でも今回は実際にあった「にやりほっと報告」を紹介したいと思います。

Hさん：ヘアーカットを終えて廊下を歩いているときに、掃除の女性に広瀬すずみたいになったでしょ？と問いかけている姿があり。その後もフロアーに戻り、職員やお友達に広瀬すず？と求められたので、すずになっているね。というととても嬉しそうにし、うれしくなって行動もとても速く行えていた。

Sさん：入浴前に、掃除や布団敷を終えて、朝の付属品選びを職員に伝える行動時に、明日はパン。と自信をもって言いかけたところで、職員に明日はご飯だよ。と言われて、『あー』と叫び、自分が間違えたことで恥ずかしそうにして体を崩して床にしゃがみこんでいた。

Uさん：1フロアドアの所で夜勤者が見守りをしていると静かに床に座りバックの余暇をしながら声を上げることもなく三〇分以上一緒に見守りをしてくれ、たのもしかった。

Mさん：夕方Sさんと一緒に事務室へ入ってくる。Mさんに「(事務室から)出ます」と言ったら、Sさんの背中をやさしく押し、事務室の外に出していた。

Kさん：AM施設敷地内ドライブを行うため、6Fにて声掛けをすると、笑顔のまま小走りで玄関に向かう。靴を履き替え、乗車する際にも待ちきれないのか小走りだった。外に出られるのがとてもうれしい様子がうかがえた

Oさん：【夕食】勢いよく食事を開始し、Hさん・Mさんとは蒸しパン1口の差で、5F全体で3番目に完食された。

Fさん：起床支援のため居室に行くと、支援員の顔を見て満面の笑みを浮かべる。久しぶりにFさんの笑顔が見られて穏やかな気持ちになれました。

Hさん：入浴前ラウンジで歌を歌ったら笑顔で一緒に歌ってくれました。Hさんの明るい笑顔が見られて今日も頑張ろうと思いました。

Hさん：支援員が「トランプあったらいいのにね、ババ抜きでもやりたいね」と声をかけると、「Aさんが持っているかも！」とラウンジに行き、夢を実現させていた。支援員にトランプを配ってもらって盛り上がっていた。

Oさん：【朝食時】トレーの食事を食べ終えると、自らカップの牛乳を飲み始め、全部摂取していた。

Iさん・Wさん：夕方の時間、IさんがWさんに手を差し出すと、Wさんが握り返していた。何度か繰り返してコミュニケーションをとっているように見えた

Mさん：【夕食時】本人にスプーンを持ってもらい、その手を職員が支えて食事支援を行う。初めは職員がお粥をすくっていたが、徐々に本人が器を持つようになり、最後は以前のように自分でお粥をかき込むようにして食べていた。

Sさん：夕食を食べている途中で手が止まり、TVをジーっと目をそらすことなくみている。TVに映っていたのはキティーちゃんだった。ニヤケながらみていた。

Tさん：支援中、怪我した部分をTさんが気付き、「どうしたの？」と声を掛けて下さる。話をすると「体大事にしとくれよ」と笑いながら言っていた為「心配してくれるの？」と聞くと「うん」とそのまま返事がある。「普段はからかい・からかわれる関係だった為、からかわれるのだなと思って話したところで心配して下さり、嬉しい気持ちになりました。